

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ある2才児の言語から 〈論文〉
Author(s)	古浦, 敏生
Citation	広大言語 , 10 : 17 - 20
Issue Date	1970-12-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046341
Right	
Relation	



ある2才児の言語から

白 浦 敏 生

§ 1 はじめに

我家の坊主、^{ふくす}_{注1}永生（昭和43年7月17日生）、も早いもので、もはや2才を過ぎた。今まであまり親らしいことをしていないので、罪滅しのつもりで、彼が満2才までに自ら語った単語（或は文）をまとめて、少し説明を加え、記録してみようと思う。

§ 2 語 彙

まず、彼が語った語彙を内容別に分類しておこう。

- (1) 食 物：ジュジュ（ジュース）、^{シーカ}_{注2}（西瓜）、ペプシ（ペプシコーラ）、^{モンモ}_{注3}（桃）、^{タイタイ}_{注4}（魚、鯉織）、ブキヤ（人参）、ツ（キ）、^{ベツ}_{注5}、ウイン（ウイナーソーセージ）、^{ボ、ボ}_{注5}（ごぼう）、^{ブ、ボ}_{注5}（ぶどう）、^{ゴリン}_{注3}（りんご）、^{ミー、ミー}_{注3}（みかん）、マミ（豆、種）、^{ニュー、ニュー}_{注3}（牛乳）、^ボ_{注3}（とまと）、クッ（クッキー）、ゴンゴン（団子）、^ブ_{注6}（豆腐）、^{バーマンマ}_{注6}（バナナ）、ゴワンゴワン（御飯）、^{チーク}_{注6}（チーズ）、^{ムーム}_{注6}（アイスクリーム）、^{バーン}_{注6}（パン）。
- (2) 身体&動作：チェ（手）、メツ&ミツ（目）、ミミ（耳）、アッチ&アッシ（足）、^{シッコ}_{注7}（小便）、^{ウン}_{注7}（大便）、^{ブー}_{注7}（おなら）、^{アンコン}_{注7}（座る）、^{バーイ}_{注7}（脱ぐ、捨てる）、^{ネンネ&グーグー}_{注7}（寝る）、^{タッチ}_{注7}（立つ）、^{チャー}_{注7}（打つ、打ち負かす）、^{ジャー}_{注7}（ザーッと水を流す、水）。
- (3) 乗 物：ブンブン（自動車）、パンパン（バス）、ジンジン（自動車、三輪車、車輪がよく見えるもの）、^{ビュワー}_{注8}（ひかり号）、^{ジープ}_{注8}（ジープ）、^{ボンボン}_{注8}（船）、^{ゴー}_{注8}（電車）、^ボ_{注8}（汽車）、^{ブーン}_{注8}（飛行機）、^{チェンチェン}_{注8}（警報器）、^{ウー}_{注8}（サイレン）。
- (4) 衣類&道具：^ベ_{注9}（洋服）、^{ボン}_{注9}（ズベン）、^{パンパ}_{注9}（パンツ）、^{ジンパン}_{注9}（ジン）、^{ベイ}_{注9}、^{クック}_{注9}（靴）；^{レーコ}_{注9}（冷蔵庫）、^ボ_{注9}（ボタン）、^{パッ}_{注9}（タッパー）、^{ブーブ}_{注9}（ビニールプール）、^{ブン}_{注9}（新聞）、^{ピン}_{注9}（ピン）。
- (5) 動 物：^{ウマ}_{注12}（馬）、^{モーン}_{注12}（牛）、^{チョー}_{注12}（猪）、^{チュン}_{注12}（鳥）。

ウワンワン(犬), ニャーニャン(猫), ボッ(尻尾), ホーニ(鬼)。

(6) 家 族: コンコン(父), カンカン(母), ジンジン(祖父), ボブボブ(僕),
 <注13>
 エーコ(良い子、自分のこと)。

(7) 色: アッアッ(赤), テー(黄), バッパ(緑木の葉), アーオ(青)。

(8) 感情&挨拶: チャイチャイ(うれしい), ナイナイ(無い、シッコが済んだ), アチー(燃い), ジージ(きたない), キエキエ(きれい), アーア(失敗),
 ゴン(ぶつかって痛い), ピヤピヤ(ピカピカ), オー(おはよう),
 イッシ&アー(yes)。

(9) そ の 他: エー(絵), ジーヤ&ジャジャ(字), ベーン(もういっぺん云ってく
 れ), チョッチョッ(一寸), ビービ(警備)。
 <注14>

以上からわかるように、食物に関する語彙が最も多い。また、乗物に関する語彙がかなり多いのは、男の子故であろう。なかでも、最も早く習得したと思われる語彙はブンブンであった。バスも以前はブンブンであったが、のちに分化独立してバンバンとなった。合計90余種。その他記述しそこなったものもあろうから、ザッと100種の語彙を用いていることになる。

§ 3 音

子供は易しい音から覚えていくとされているが、50音を云わせてみると、ア行、ナ行、マ行、バ行、パ行、が完全、その他、カ、ク、コ、チ、ツ、テ、ガ、ジ、グ、ゲ、ゴ、が云える程度である。この他の音は、別表のように、別の音で置き代えられている。

ここで、音についてのメモを列記しておく。

- (1) 音の長短だけで語の区別をしているものがある。eg. プーン(飛行機); ブン(新聞)。
- (2) アクセントが大人のそれと異なるものがある。eg. ビン(ビン) また、ブンブン(自動車)と異なりバンバン(バス)は後が高い。

行	発 音					行	発 音				
あ	ア	イ	ウ	エ	オ	ら	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
か	カ	チ	ク	ケ	コ	わ	ア	/	/	/	/
さ	カ	チ	ツ	チェ	コ	が	ガ	ジ	グ	ゲ	ゴ
た	カ	チ	ツ	テ	コ	ざ	ガ	ジ	グ	ゲ	ゴ
な	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	だ	カ	ジ	グ	ゲ	ゴ
は	ア	イ	ウ	エ	オ	ば	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ま	マ	ミ	ム	メ	モ	ば	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
や	ア	/	ウ	/	オ						

- (3) 単独では正確に発音できる音でも、語の中で現われる時には、別の音になることがある。
 eg. ジーブ(ジープ)におけるブ。

- (4) 単独では発音できない音でも、語の中では正確に発音できることがある。eg. ペブシ (ハブシコーラ) のシ。また、ワは単独では発音できないのであるが、ウを語頭に置くと云いやすいらしい (cf ウワンワン)。
- (5) 一度正しい発音をしても、二度とはできないことがあった。一度、みごとなゴチソーサンを聞かされたが、ただ一度だけであった。

§ 4 形 態

ここでは、§ 2 で挙げた語の構成法を検討してみよう。

- (1) 擬声語—— eg. ブー, ジャー, グーグー, プンブン, ビューー, ポンポン, ゴー, ポー (汽車), ブーン, チェンチェン, ウー, モーン, チュンチュン, ウワンワン, ニャニャン, ゴン。
- (2) 語末のみで語としたもの—— eg. ボン, プン, ポッ, ペン, ツー, プー, ムーム, ビービ。
- (3) 語頭のみで語としたもの—— eg. ウイン, ミーミー, ウン, ポー, オー。
- (4) 語頭と語末のみで語としたもの—— eg. レーコ。
- (5) 音位転換—— eg. ゴリン。
- (6) 類推によるもの—— eg. パーマンマ。これは、バ (=バナナ) の付くマンマの意らしい。マンマ (食物) は分化してしまって、現在では用いていないので、§ 2 からは除いておいた。
- (7) その他—— 大人の言語をそのまま真似たもの、これが最も多い。

§ 5 意 味

ここでは、意味論的な面で気付いたことを列記しておく。

- (1) 同音異義語がある。eg. ポー (汽車); ポー (とまと)。
- (2) すでに意味変化も見られる。eg. ブポー。
最初は、果物のぶどうをブドーとして教えたのであるが、のちには、ブポーは果物であると同時に、ぶどうの房のように見えるものの総称ともなった。その結果、重なった団子がぶどうの房のように見えた時、ブポーが用いられた。
- (3) 語源のわからない語もある。eg. ブキヤー, ポー (とまと), チャイチャイ。
- (4) 積極性: 消極性。同じ「ハイ」という返事でも、イッシ (<ヨシ) という時には、自分が気に入って積極的に賛成する時である (eg. 「ヒサチャン、スイカ食べマスカ?」、「イッシ」)。これに対して、しぶしぶ返事をする時には、「アー」となる (eg. 「ヒサチャン、モウ遊ブノヤメテ、ネンネシナサイ」、「アー」)。

- (5) 意味のわからない語もある。eg,エンコン。これには参った。エンコンの絵を書いてくれと云う。レンコンでもないし、何のことかサッパリわからない。どうやら、自分では実体がわかっていても口には出せないものの総称らしい。

§ 6 おわりに

まとまりの悪いものになったが、2才児の言語の中にもすでに意味変化や類推が現れたり、語源のわからない語など、大人顔負けの現象が生じていることがわかった。筆者は本稿を書き終えて、2才児の言語すら十分に記述説明できないのだから、複雑きわまりない大人の言語に手こずるのは当然だと痛感した。

(注 1) 泉井久之助先生のヒサの音を拝借。名実ともに長生きをして欲しいとの意。

(注 2) 2才過ぎてからは、チュイカ。

(注 3) いずれも、果物自体を示すと同時に、その色をも示す。

(注 4) ハスキーボイスで云う。

(注 5) 両者の差は微妙であるが、食卓に両者が同時に並ぶことはまれである故(果物は食後にする故)、区別が可能である。

(注 6) 2才過ぎてからは、ポーブ。

(注 7) 座ることを、アットンとして教えた故であろう。

(注 8) 「走れ超特急」という童謡に出てくる。

(注 9) これは、掃除器の意にもなる。

(注 10) 2才過ぎてからは、ブーボン。

(注 11) 家内の乳首や自分のおへそもポーである。

(注 12) 絵本で見る馬のほか、おもちゃの馬、レッカー車、クレーン車のように長い鼻を持っているように見えるものの総称でもある。

(注 13) 拙宅では、「トーチャン：カーチャン」を教えたので、カーチャンがカンカンなら、トーチャンはトントンとなるべきところであった。ところが、トの音が発音できないのでコで代用した(表を参照のこと)。

(注 14) 「ヒサチャン、トウチャンハ学校へ何シニ行クノ?」、「ビービ」。大学紛争による自主警備の影響大である。